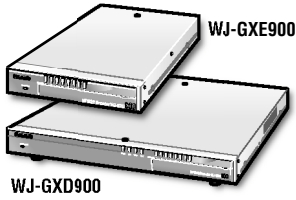


MPEG2エンコーダー・MPEG2デコーダー

取扱説明書

工事説明付き



MPEG2エンコーダー

MPEG2デコーダー

品番 **WJ-GXE900** **WJ-GXD900**

もくじ

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
必要なシステム環境	3
免責について	3
商標および登録商標について	4
用語・記号について	4
本書について	4
ネットワーク環境についてのご注意	4
安全上のご注意	5
取り扱い上のご注意	7
各部の名前とはたらき	8
設置上のごお願い	12
設定画面の表示方法	18
仕様	20
保証とアフターサービス	22

ご使用前に

設置

設定

仕様

上手に使うって上手に節電

保証書別添付

このたびは、MPEG2エンコーダー、MPEG2デコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

商品概要

MPEG2画像配信システム(以下システム)は、LAN(Local Area Network)などのネットワーク(以下ネットワーク)に、カメラの映像を動画で配信するシステムです。本システムは、映像(NTSC)をデジタルデータ(MPEG2)に変換するMPEG2エンコーダーと、デジタルデータ(MPEG2)を映像(NTSC)に変換するMPEG2デコーダーで構成されます。

- 本システムは、動画圧縮技術としてMPEG2方式を採用しています。最大9 Mbps、最大30フレーム/秒で動画を送受信できます。
- 本システムは、TCP/IPおよびUDP/IPプロトコルを採用しています。これらのプロトコルをサポートしているネットワークに接続することができます。
- MPEG2エンコーダーは100Base-TX、MPEG2デコーダーは100Base-TXまたは1000Base-Tのネットワークを通じて、映像、音声、制御データを送受信できます。
- アラーム機器(センサー)と連動して、映像のビットレート制御やカメラ制御ができます。アラーム機器は、MPEG2エンコーダー後面のALARM INに接続します。
- MPEG2エンコーダー1台には映像入力(VIDEO IN)が4つあり、コンビネーションカメラを4台まで接続できます。回転台の旋回、ズーム、フォーカスなどを遠隔操作できます。
- MPEG2エンコーダーの映像出力(VIDEO OUT)には、映像入力(VIDEO IN)に接続したカメラの映像がループスルーで出力されます。デジタルディスクレコーダーなどの録画機器を接続し、カメラの映像を録画することができます(別売りケーブル(WV-CA64)が別途必要です)。
- MPEG2デコーダーのQUAD VIDEO OUTは、VIDEO OUT 1~4の映像を4画面に合成して出力します。QUAD VIDEO OUTを使えば、1台のモニターで4台までのカメラの映像を同時に確認することができます。
- MPEG2エンコーダーのRS-485コネクタは、シリアルデータ用のデータポートです。MPEG2エンコーダーとネットワークの間で、シリアルデータの送受信ができます。ネットワークから受信したUDP/IPパケットからデータ部を抽出してシリアルデータに変換、またはRS-485コネクタから受信したシリアルデータをUDP/IPに変換し、ネットワークに送出することができます。

付属品をご確認ください

MPEG2エンコーダー

ボックス収納用簡易取付金具	4
簡易取付金具用ねじ(M3×6)	8
コードラベル	1
天面説明ラベル(1)	1
天面説明ラベル(2)	1
CD-ROM(PDFマニュアル、IPSETUP.EXE)	1
取扱説明書(本書)	1
保証書	1

MPEG2デコーダー

ラックマウント金具	2
金具取付ねじ(M3×8)	6
ラック取付ねじ(M5×12)	4
コードラベル	1
天面説明ラベル	1
CD-ROM(PDFマニュアル、IPSETUP.EXE)	1
取扱説明書(本書)	1
保証書	1

必要なシステム環境

CD-ROM内のIPSETUPソフトウェアの実行、またはブラウザーによるMPEG2エンコーダー、MPEG2デコーダーの設定・操作は、以下のシステム環境を持つPCで可能です。

OS:	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Microsoft® Windows® 2000 Professional ServicePack3 Microsoft® Windows® Millennium Edition Microsoft® Windows® XP Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 ServicePack6a
コンピューター:	PC/AT互換機
CPU:	Intel® Pentium® II (300 MHz) 以上
メモリ:	128 MB以上
画面:	True color 24ビット以上 XGA以上の解像度で使用してください。
インターフェース:	100Mbps以上のEthernetカードが内蔵されていること
対応ネットワークプロトコル:	TCP/IP、UDP、HTTP、FTP、ARP、BOOTP
CD-ROMドライブ:	IPSETUPプログラムの実行およびCD-ROM内の取扱説明書(PDF)を参照するために必要
ブラウザー:	Internet Explorer 5.5、5.5SP2、6.0、6.0SP1
Acrobat® Reader:	CD-ROM内の取扱説明書(PDF)を参照するために必要。PCにAcrobat® Readerがインストールされていないときは、アドビシステムズ社のホームページから最新のAcrobat® Readerをダウンロードし、インストールしてください。

免責について

この製品は、盗難などを未然に防止するものではありません。

製品の仕様はお断り無く変更になる場合があります。

商標および登録商標について

- Microsoft、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、Pentiumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- EthernetはXerox Corporationの登録商標です。
- Adobe、AdobeロゴおよびAcrobatは、Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社) の商標です。
- Dolby DigitalはDolby Laboratoriesの登録商標です。
- その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

用語・記号について

このマニュアルでは、以下の略称を使用しています。

- MPEG2エンコーダー、MPEG2デコーダーを単にエンコーダー、デコーダーと表記しています。
- MPEG2エンコーダーおよびMPEG2デコーダーの総称はMPEG2画像配信システムと表記しています。

本書について

本書は、MPEG2エンコーダー、MPEG2デコーダーの各部の名前、設置のしかた、設定時の接続方法について説明しています。MPEG2エンコーダー、MPEG2デコーダーを使用したシステム構成や設定・操作方法は付属CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

ネットワーク環境についてのご注意

エンコーダーをオフィスLANに接続する前に、接続するネットワークが、最大9.2 Mbpsのマルチキャストストリーム(4本)に対応可能か、ネットワーク管理者に必ず確認してください。確認せずにエンコーダーを接続すると、ネットワーク全体に障害が発生する場合があります。

本システムの操作は、PCのブラウザーからCGIを利用して行います。次の場合、PCのブラウザーから操作できない場合がありますので注意してください。



- ネットワーク中に(本システムとPCの間に)、ファイアウォール(ソフトウェアおよびハードウェア)、プロキシサーバーなどを導入されている場合、CGIで操作できないことがあります。この場合は、ネットワーク管理者に本システムが使用するポートNo.に対して、データを通過させるよう依頼してください。
- 操作するブラウザーの設定によっては、CGIを利用できない場合があります。お使いになるブラウザーの取扱説明書またはヘルプを参照し、CGIが利用できるように設定を変更してください。

安全上のご注意



必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

ご使用前に

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

不安定な場所に置かない



禁止

落下によるけがの原因になります。

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

電源コード・電源プラグを破損するよう
なことはしない

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、
無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、
重いものを載せたり、束ねたりしない)



傷んだまま使用すると、感電・ショール
ト・火災の原因になります。

禁止

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使
い方や、交流100V以外での使用はしな
い



たこ足配線等で、定格を超えると、発熱
による火災の原因になります。

禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱に
よる火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないで
ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で
絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、電源プラグ
の抜き差しはしない



感電の原因になり
ます。

ぬれ手禁止

雷のときは工事・配線し
ない



火災や感電の原因
となります。

禁止

配線は正しく行う



ショートや誤配線
は火災の原因とな
ります。

注意

通風孔をふさがない



内部に熱がこもり、
火災の原因になりま
す。

禁止

振動や強い衝撃を与えな
い



火災や感電、故障の
原因になります。

禁止

湿気やほこりの多い場所
に設置しない



火災や感電、故障の
原因になります。

禁止

取り扱い上のご注意

使用電源は

AC100Vです。

消費電力の大きな機器(コピー機、空調機器など)と同じコンセントから電源をとらないでください。

使用温度範囲は

-10℃から+50℃です。(常時通電状態でお使いになる場合)

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。周囲温度が-10℃~0℃で電源を入れると、内部温度が上昇するまでネットワークのリンクが確立しないなどの現象が発生することがあります。このときは通電状態のまましばらくお待ちください。約20分ほどで通常操作が可能となります。

直射日光の当たる場所や高温下では使用しないでください。本体側面、後面の放熱ファンの吹き出し口、底面の通風口はふさがらないでください(→12ページ)。

内蔵バックアップ電池について

- 初めて使用するときは、48時間以上の連続通電を行い、内蔵のバックアップ電池を充電してください。電池の充電が不十分ですと、停電があったときに内部時計の時刻が狂うことがあります。なお、各種設定内容は揮発性のメモリーに記録されていますので停電で消えることはありません。
- 内蔵バックアップ電池を交換するさいは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 内蔵バックアップ電池には寿命があります。寿命をすぎると、電源を切った際に、時刻設定の内容が保存されません。なお、内蔵バックアップ電池の寿命は約5年です(寿命は使用条件によって短くなる場合があります)。

電源スイッチについて

電源スイッチを「OFF」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合、ACコンセントから本機の電源プラグを抜くか、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

電源について

電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- 電源制御ユニットを介して接続する。
- 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)を介して接続する。

- 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

ていねいにお取り扱いください。

落下させたり、強い衝撃や振動を与えますと、故障や事故の原因になります。

ネットワークのサージ対策について

エンコーダーおよびデコーダーは、落雷などによるサージに対して一次保護(ITU-T勧告Kシリーズ相当)が適用されているネットワークに接続してください。サージに対して一次保護されていないネットワークに接続すると、落雷などにより本機が故障することがあります。

アースについて

必ずアース端子から大地にアースをとってください。アースをしないと発振したり、故障の原因となる場合があります。

お手入れについて

電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。

ほこりがとれにくいときは、水で薄めた台所用洗剤を柔らかい布にしみこませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。

シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

放熱ファンについて

放熱ファンは消耗品です。約30 000 時間を目安に交換してください。なお、放熱ファンの交換は、保証期間内であっても有料となります。交換する際は、販売店にご相談ください。

長期間使用しない場合は

機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて動作させてください。

表示について

本機の識別および電源、その他の表示は機器底面をお読みください。

各部の名前とはたらき

MPEG2エンコーダー前面



①通電LED[OPERATE]

電源をONにすると点灯します。内部温度異常(高温)の場合は点滅します。

電源をONにしてから起動するまで、約2分45秒かかります。起動中、状態LEDが、STATUS 1～STATUS 5の順番に点灯します。STATUS 5<RUN>が点灯すると、運用可能となり、以降エンコーダーの状態によって状態LEDが点灯、点滅、または消灯します。

②状態LED[STATUS]

STATUS 1～STATUS 4 <VIDEO1～4>: STATUS1～STATUS4はVIDEO IN 1～VIDEO IN 4に対応しています。VIDEO INに入力された映像をエンコードし映像ストリームをネットワークに送信している場合点灯します。VIDEO INに映像が入力されていない場合点滅します。映像が入力されていても、ストリームを送信していない場合(エンコードをSTOPしているとき)消灯します。

STATUS 5<RUN>: エンコーダーの運用が可能な場合、点灯します。

STATUS 6<LINK2>: エンコーダー起動時の初期化処理が正常に終了し、ネットワークとの通信が可能になると点灯します。

STATUS 7<RCV>: 映像パケット以外のパケット(カメラ制御・シリアルデータなど)受信時に点灯します。

STATUS 8<XMT>: 映像パケット以外のパケット(シリアルデータなど)送信時に点灯します。

③SW1(ロータリースイッチA、B、C)

メインCPUがある場合、機器のIDを設定するために使用します。設定範囲は、000～FFFの4096とおりです。工場出荷時は“000”に設定されています。

注意: メインCPUモードとは統合制御のための拡張機能です。通常、このスイッチは工場出荷時の状態のままお使いください。

④SW2

スイッチの状態によって、エンコーダーは以下のように動作します。これらのスイッチの設定は、起動時に有効となります。工場出荷時はすべてOFFに設定されています。

注意: ONにしたままにすると、電源を入れ直すたびに設定した動作を行います。

DIP1: OFFのままお使いください。ONにすると、工場出荷時に組み込まれたファームウェアが実行されます。設定値は、消去されません。

DIP2: ONにするとIPアドレスおよびすべての設定値を工場出荷時の設定に戻します。

DIP3: ONにするとIPアドレスを初期化します。ただし、DIP4がOFFのときだけ有効です。

DIP4: ONにするとDHCPを有効にします。

DIP5: ONにするとメインCPUモードに変更できません。通常はOFFのままお使いください。

注意: メインCPUモードとは統合制御のための拡張機能です。通常、このスイッチは工場出荷時の状態のままお使いください。

DIP6: 予備

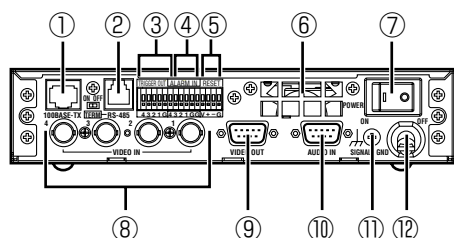
DIP7: ONにするとHTTPサーバーの機能を停止します。

DIP8: OFFのままお使いください。ONがIPLモード(テスト用)、OFFが通常モードです。

⑤リセットボタン

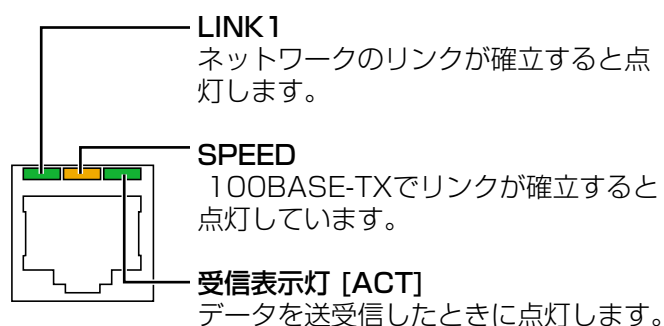
このボタンを押すと、エンコーダーの電源を切らずに再起動できます。エンコーダーの動作が不安定になったときにのみ操作してください。

MPEG2エンコーダー後面



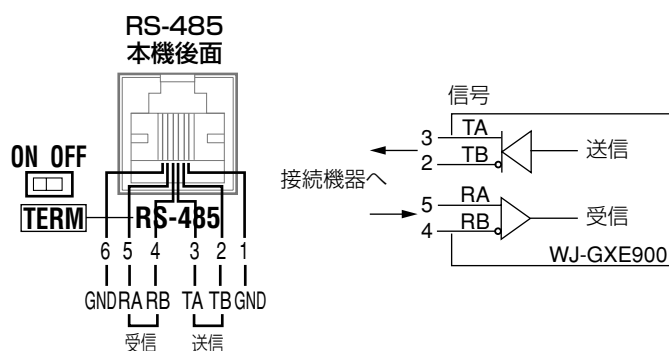
①イーサネットI/F[100BASE-TX](RJ-45タイプ)

ルーターやハブなどのネットワーク機器との接続にはカテゴリ5(100BASE-TX)適合ケーブルをお使いください。



②RS-485(RJ-11タイプ)/TERM ON/OFF

RS-485通信可能な機器を接続します。終端は、TERMスイッチで設定します。



③トリガー出力[TRIGGER OUT 1~4、G(GND)]

接点出力の制御用CGIコマンド(→PDFマニュアル参照)で、TRIGGER OUTからトリガー信号を出力することができます。

オープンコレクタ出力、DC 25 V、最大 50 mA

④アラーム入力[ALARM IN 1~4、G(GND)]

センサーなどの外部機器を接続します。

オープンコレクタまたは無電圧メイク接点、Low Active(0.2 V以下)、パルス幅 100 ms以上、耐電圧最大DC 5 V

⑤リセット入力[RESET]

本体を再起動するときに使います。

⑥放熱ファン

内部に放熱用のファンが内蔵されています。異物を入れたり、吹き出し口をふさいだりしないでください。

注意: 放熱ファンは消耗品です。約30,000時間を目安に交換してください。放熱ファンの交換は、保証期間内でも有料となります。交換は、販売店にご相談ください。

⑦電源スイッチ[POWER]

電源をONにすると、前面の通電LEDが点灯します。

⑧VIDEO IN(NTSCコンポジット、BNC、1 V[p-p]/75 Ω)

カメラなどの映像機器を接続します。4台まで接続できます。

⑨VIDEO OUT(NTSCコンポジット、Dsub9ピン、1 V[p-p]/75 Ω)

VIDEO IN 1~4に入力した映像のループスルー映像が出力されます。モニターを接続すれば、VIDEO IN 1~4に入力した映像を確認できます。モニターは、4台まで接続できます。接続には、別売りのケーブル(WV-CA64)が必要です。

⑩AUDIO IN(Dsub9ピン、-10 dBv)

音声機器を接続します。接続には、別売りのケーブル(WV-CA64)が必要です。4台まで接続できます。

⑪SIGNAL GND

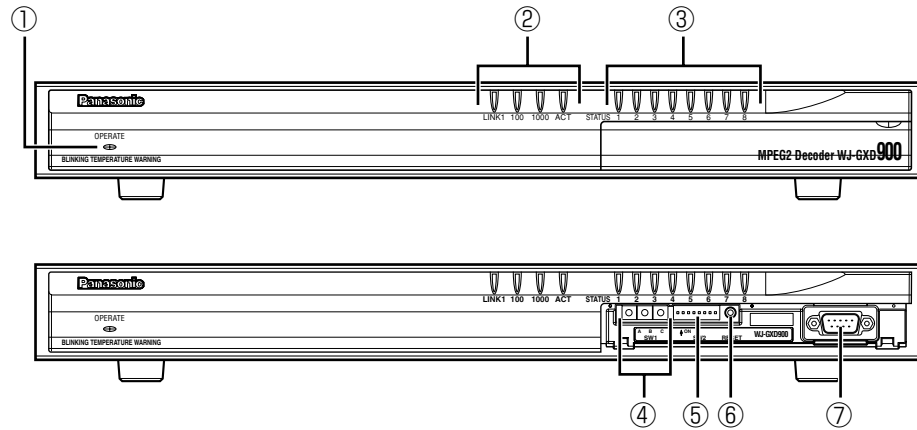
アース端子です。

⑫電源コード

AC 100 V (50/60 Hz)の電源コンセントに接続します。

各部の名前とはたらき

MPEG2デコーダー前面



①通電LED[OPERATE]

電源をONにすると点灯します。内部温度異常(高温)の場合は点滅します。

電源をONにしてから起動するまで、約2分かかります。起動中、状態LEDが、STATUS 1～STATUS 5の順番に点灯します。STATUS 5<RUN>が点灯すると、運用可能となり、以降デコーダーの状態によって状態LEDが点灯、点滅、または消灯します。

②ネットワーク状態LED

LINK1: ネットワークのリンクが確立すると、点灯します。

100: 100BASE-TXの場合、点灯します。

1000: 1000BASE-Tの場合、点灯します。

ACT: パケットの送受信時に点灯します。

③状態LED[STATUS]

STATUS1～STATUS4<VIDEO1～4>: STATUS1～STATUS4はVIDEO OUT 1～VIDEO OUT 4に対応しています。ネットワークから受信した映像ストリームを映像信号にデコードしている場合点灯します。映像ストリームを受信していない場合点滅します。デコードをSTOPしている場合消灯します。

STATUS5<RUN>: デコーダーの運用が可能の場合、点灯します。

STATUS 6<LINK2>: デコーダー起動時の初期化処理が正常に終了し、ネットワークとの通信が可能になると点灯します。

STATUS 7<RCV>: 映像パケット以外のパケット(映像切り換えなど)受信時に点灯します。

STATUS 8<XMT>: 映像パケット以外のパケット(受信確認など)送信時に点灯します。

④SW1(ロータリースイッチA、B、C)

メインCPUがある場合、機器のIDを設定するために使用します。設定範囲は、000～FFFの4096とおりです。工場出荷時、各スイッチは“000”に設定されています。

注意: メインCPUモードとは統合制御のための拡張機能です。通常、このスイッチは工場出荷時の状態のままお使いください。

⑤SW2

スイッチの状態によって、デコーダーは以下のように動作します。これらのスイッチの設定は、起動時に有効となります。工場出荷時はすべてOFFに設定されています。

注意: ONにしたままにすると、電源を入れ直すたびに設定した動作を行います。

DIP1: OFFでお使いください。ONにすると、工場出荷時に組み込まれたファームウェアが実行されます。設定値は、消去されません。

DIP2: ONにするとIPアドレスおよびすべての設定値を工場出荷時の設定に戻します。

DIP3: ONにするとIPアドレスを初期化します。ただし、DIP4がOFFのときだけ有効です。

DIP4: ONにするとDHCPを有効にします。

DIP5: ONにするとメインCPUモードに変更できます。通常はOFFのままお使いください。

注意: メインCPUモードとは統合制御のための拡張機能です。通常、このスイッチは工場出荷時の状態のままお使いください。

DIP6: 予備

DIP7: ONにするとHTTPサーバーの機能を停止します。

DIP8: OFFのままお使いください。ONがIPLモード(テスト用)、OFFが通常モードです。

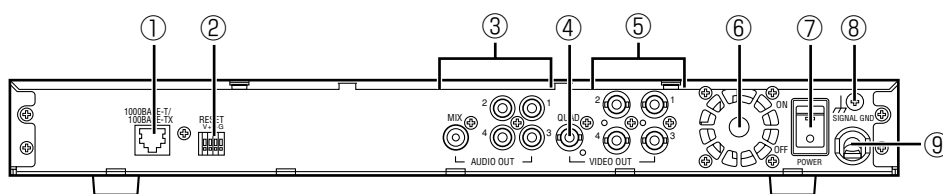
⑥リセットボタン

このボタンを押すとすると、デコーダーの電源を切らずに再起動できます。デコーダーの動作が不安定になったときにのみ操作してください。

⑦RS-232C(D-Sub9ピン)

メンテナンス用です。運用には使用しません。

MPEG2デコーダー後面



①イーサネットI/F[100BASE-TX/1000BASE-T] (RJ-45タイプ)

ネットワークケーブルを接続します。ネットワーク機器とデコーダーとの通信速度によって使用するケーブルが以下のように異なります。通信する速度に合わせて最適なケーブルをお使いください。

1000BASE-Tで通信する場合:

STP(シールドツイストペア)のエンハンスドカテゴリ5(1000BASE-T)適合ケーブル

100BASE-TXで通信する場合:

カテゴリ5 (100BASE-TX)適合ケーブル

②リセット入力[RESET]

本体を再起動するときに使います。

③AUDIO OUT 1~4(RCAピンジャック -10 dBv)

アンプ・スピーカーなどの音声機器を接続します。音声出力のONまたはOFFは、CGIコマンドで行います。MIXは、AUDIO OUT1~4に設定されている、すべての音声をミキシングして出力します。

④QUAD(NTSCコンポジット、BNC、1 V[p-p]/75 Ω)

モニターなどの映像機器を接続します。VIDEO OUT 1~4までの映像を1台のモニターに同時に表示できます。

⑤VIDEO OUT 1~4(NTSCコンポジット、BNC、1 V[p-p]/75 Ω)

モニターなどの映像出力機器を接続します。表示する映像は、設定メニューまたはCGIコマンドで設定します。

⑥放熱ファン

内部に放熱用のファンが内蔵されています。異物を入れたり、吹き出し口をふさいだりしないでください。

注意: 放熱ファンは消耗品です。約30 000 時間を目安に交換してください。放熱ファンの交換は、保証期間内でも有料となります。交換は、販売店にご相談ください。

⑦電源スイッチ

電源スイッチをONにすると、前面の通電LEDが点灯します。

⑧SIGNAL GND

アース端子です。

⑨電源コード

AC 100 V (50/60 Hz)の電源コンセントに接続します。

設置上のお願い



警告

- ・工事は販売店にご依頼ください。
- ・工事を行う前に主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

エンコーダーまたはデコーダーを設置するときは、次のことをお守りください。

5 cm以上間隔を空ける

機種は側面、上面、後面は壁面から5 cm以上空けてください。エンコーダーは、底面に通風口がありますので、底面をふさがらないでください。

雑音源は避ける

電灯線など雑音源にケーブルを近づけると映像が乱れる場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線する、または本機の位置を変えてください。

以下の場所には設置しない

- ・直射日光の当たる場所
- ・振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- ・スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- ・結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- ・厨房など蒸気や油分の多い場所
- ・傾斜のある場所

ラックにマウントするときは

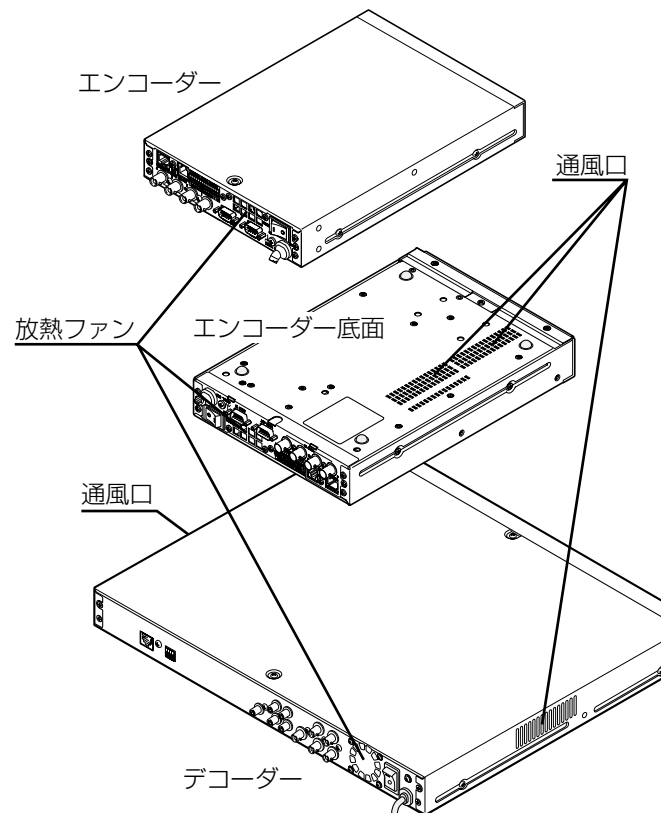
- ・本機をラックマウントする場合は、必ずEIA規格相当のラック（奥行き450 mm以上）をお使いください。
- ・ラック内の温度が+45 °C以上にならないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- ・本機は、できるだけラック下側にマウントしてください。

詳しくは、「ラックに取り付ける」をお読みください。

放熱について

内部に熱がこもると、火災や故障の原因となりますので、次のことに注意してください。

- ・放熱ファンの吹き出し口や通風口を壁やラック、布などでふさがらないでください。ほこりなどで通風口がふさがれないように、定期的にお手入れをしてください。
- ・放熱ファンは消耗品です。約30 000 時間を目安に交換してください。なお、消耗品の交換は、保証期間内であっても有料となります。また、交換は販売店にご依頼ください。



ラックに取り付ける場合

ラックについて

エンコーダーおよびデコーダーは、以下のいずれかのラックに取り付けることができます。

スタンダードラック : WU-RS71 (収納ユニット数 29U)

ロングラック : WU-RL76 (収納ユニット数 41U)

EIA規格相当品 : EIA19型 奥行450 mm以上

重要!:

- 本機をラックマウントする場合は、必ずEIA規格相当のラック（奥行450 mm以上）をお使いください。
- 本機はできるだけ電力増幅ユニットなど発熱する機器よりも下に設置し、本機1台分以上の間隔を空けてください。
- ラック内の温度は+45℃以上にならないようにしてください。
- 振動の多い場所には設置しないでください。
- 付属のタッピングねじ（呼び径5）は、ラックの取付部にねじが切れていない場合に使用してください。ねじが切られているところを使用すると、ねじ山が壊れることがあります。

デコーダーの取り付けかた

1. 本機底面のゴム足(4個)を外す。

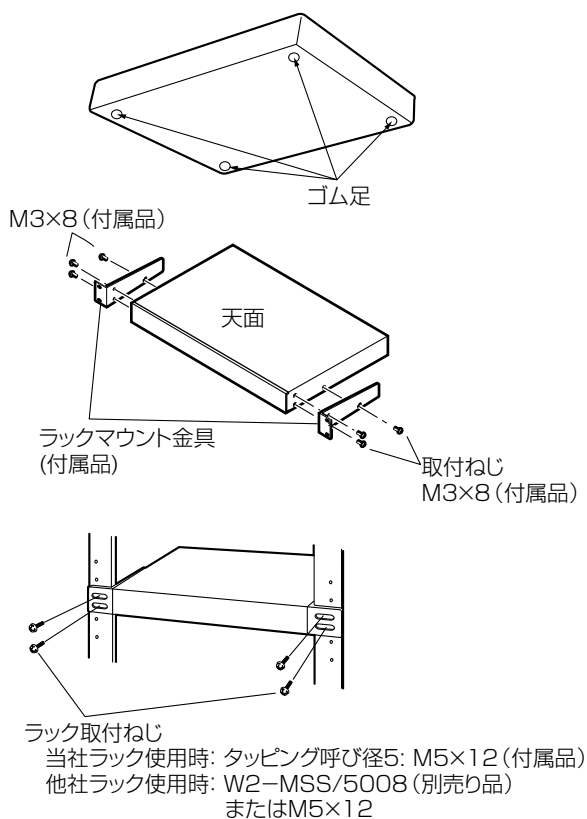
ゴム足は、固定しているねじをマイナスドライバーでゆるめると外れます。

2. 本機両側面にラックマウント金具(付属品)を金具取付ねじ(M3×8: 付属品)で取り付ける。

3. 機器をラックに取り付け、ラック取付ねじ4本で、ラックに確実に固定する。

当社製品のラックをご使用になるときは、デコーダー付属のラック取付ねじ(呼び径5タッピング: M5×12)

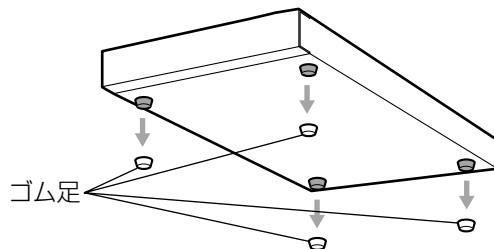
他社製品のラックをご使用の際は別売のラック取付ねじ(W2-MSS/5008またはM5×12) 4本が別途必要です。



設置上のお願い

エンコーダーの取り付けかた

1. 本機底面のゴム足(4個)を外す。



2. 本機両側面にラックマウント金具(別売品:下記参照)を取り付ける。

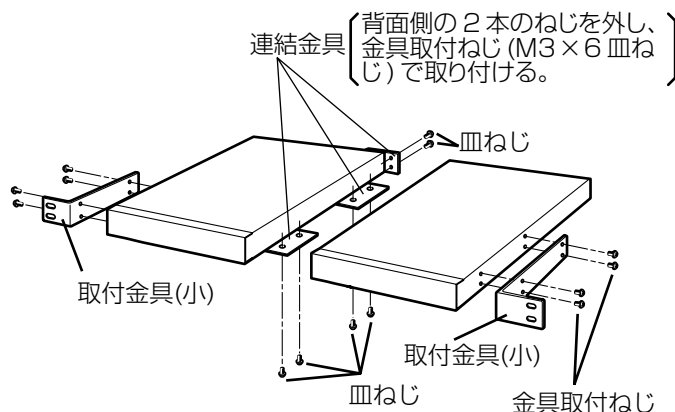
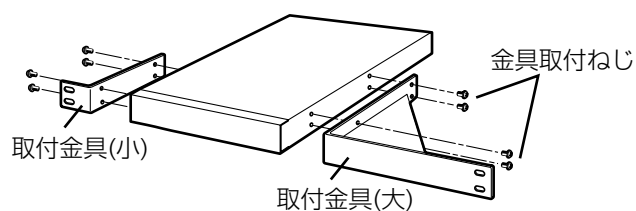
取付ねじで確実に固定してください。

(1) 1台取付時 :WQ-LMK44/1-S

- ・取付金具(大)×1
- ・取付金具(小)×1
- ・金具取付ねじ (M3×8: 6本)
- ・ラック取付ねじ(呼び径5タッピング: 4本)

(2) 2台取付時 : WQ-LMK44/2-S

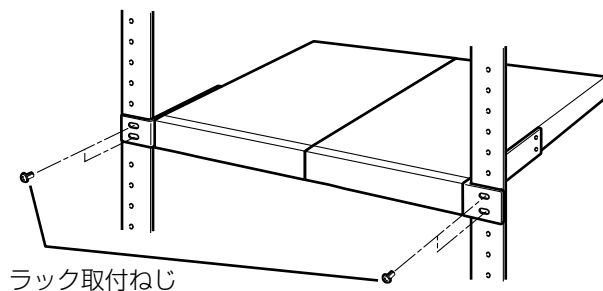
- ・取付金具(小)×2
- ・連結金具×3
- ・金具取付ねじ(M3×8: 6本)
- ・金具取付ねじ(M3×6: 12本) (皿ねじ)
- ・ラック取付ねじ(呼び径5タッピング: 4本)



3. 本機をラックに取り付け、ラック取付ねじ4本で、確実に固定する。

当社製品のラックをご使用になるときは取付金具付属のタッピング取付ねじを使います。

他社製品のラックをご使用の際は別売のラック取付ねじ (W2-MSS/5008またはM5×12) 4本が別途必要です。



収納ボックスに収納する場合(エンコーダーのみ)

エンコーダーは、収納ボックス(現地調達)に収納することができます。

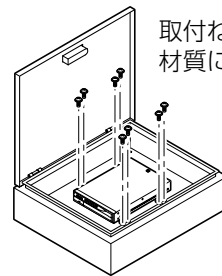
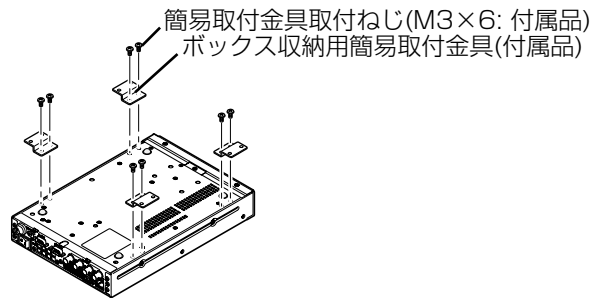
エンコーダーを収納ボックスに収納する場合、以下の手順で収納してください。

収納のしかた

1. エンコーダーの底面に、ボックス収納用簡易取付金具(付属品)を簡易取付金具取付ねじ(M3×6: 付属品)で取り付ける。
2. エンコーダーを収納ボックスに固定する。

取付ねじは、エンコーダーを収納する収納ボックスに適したねじを別途ご用意ください。

エンコーダーを収納ボックスに固定するときは、エンコーダーに取り付けた収納用簡易取付金具の固定穴を使用してください。



収納ボックスに収納時の注意事項



警告

エンコーダーを収納ボックスに収納して設置するときは、以下のことを必ずお守りください。火災や故障・誤動作の原因となります。

1. エンコーダーの内部に熱がこもらないように、以下のことを守って設置してください。
 - ・後面の放熱ファン吹き出し口および底面の通風口をケーブルや布、内壁などでふさがらないこと。
 - ・放熱ファンの吹き出し口と収納ボックスの内壁とは、10 cm以上離すこと。
 - ・付属のボックス収納用簡易取付金具を使用しない場合、底面と収納ボックスとは1 cm以上離すこと。
2. 収納ボックス内の温度および湿度は、エンコーダーとその他のすべての機器を収納した状態で収納ボックスの内部温度が、+45℃、湿度90%を超えないよう注意してください(推奨内部温度: +40℃以下)。

この範囲を超えると、内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。

収納ボックスを屋外に設置する場合は、季節の影響、日射による温度上昇および外気の影響を考慮してください。必要に応じて、サンシールド、クーラー、ヒーターの取り付け、水抜き穴などの加工を行ってください。
3. 収納ボックスは、塩害や温泉、自動車の排気ガスなどの腐食性ガスが発生する場所に設置しないでください。

本機内部の部品が腐食し、大幅に寿命が短くなります。
4. 雨のかかる場所に収納ボックスを設置する場合、収納ボックスは、JIS C 0920防水保護等級IP45以上に適合したものをお使いください。ケーブルの出し入れ口には、十分な防水対策を施すなど、屋外一般的に必要な対策を行ってください。
5. 収納ボックスによっては、エンコーダーの放熱ファンで共振が発生し、騒音の原因となることがあります。
6. ケーブルおよび後面の端子に無理な力が加わらないよう、接続ケーブルは十分な余裕を持たせて引き回し、しっかりと固定してください。
7. 本機は、車載用途など振動の多い場所には設置しないでください。故障の原因となります。

設置上のお願い

付属ラベルについて

エンコーダー、デコーダーには、天面説明ラベルとコードラベルが付属されています。これらのラベルは、必要に応じて、以下の場所にはり付けてお使いください。

エンコーダー

・天面説明ラベル(1)

SW2と状態LED(STATUS1~8)を説明したラベルです。天面(前面側)、収納ボックス、またはラックにはり付けてお使いください。

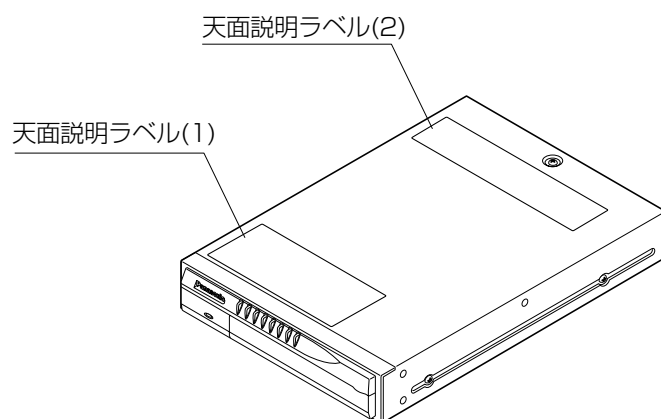
・天面説明ラベル(2)

後面端子台レイアウト、イーサネットポートのLEDを説明したラベルです。天面(後面側)、収納ボックス、またはラックにはり付けてお使いください。

・コードラベル

お買いあげいただいた機器固有のMACアドレスが記載されています。付属のコードラベルは、CD-ROMのケースなどにはり付けて保管してください。

なお、MACアドレスは、製品本体の前面フタ内側にはり付けられているラベルで確認することができます。



デコーダー

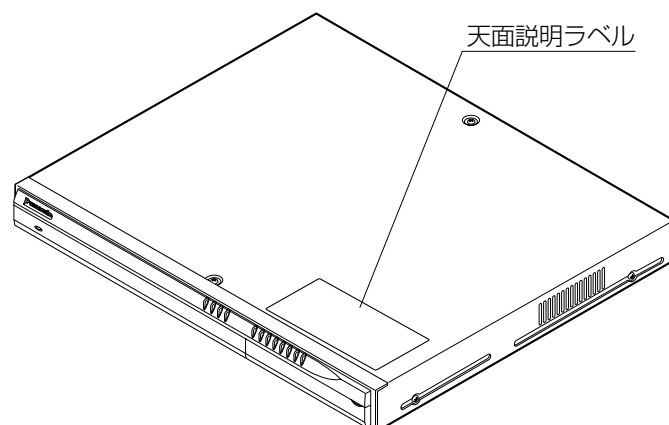
・天面説明ラベル

SW2と状態LED(STATUS1~8)を説明したラベルです。天面(前面側)、またはラックにはり付けてお使いください。

・コードラベル

お買いあげいただいた機器固有のMACアドレスが記載されています。付属のコードラベルは、CD-ROMのケースなどにはり付けて保管してください。

なお、MACアドレスは、後面パネルにはり付けられているラベルで確認することができます。



設定画面の表示方法

エンコーダーまたはデコーダーをはじめてお使いになるときには、それぞれの機器で設定が必要です(設定を初期化したときも同様の設定が必要です)。

エンコーダーまたはデコーダーの設定は、PCにインストールされているブラウザから行います(使用できるブラウザは「必要なシステム環境」をお読みください→3ページ)。

設定するためには、エンコーダーまたはデコーダーを以下のいずれかの方法で接続します。

- PCにエンコーダーまたはデコーダーを直接接続して設定する(推奨)。この場合は、設定に使用するPCのネットワークに関する設定を必要に応じて変更する必要があります。
- LANやインターネット接続して設定する。
この場合は、接続するネットワークと、エンコーダーまたはデコーダーのIPアドレス、デフォルトゲートウェイなどの設定が一致している必要があります。

使用環境によっては、エンコーダーまたはデコーダーのネットワーク(IPアドレス、サブネットマスクなど)に関する設定を変更する必要があります。この場合は、付属CD-ROM内のIPSETUPソフトウェアを利用することができます。

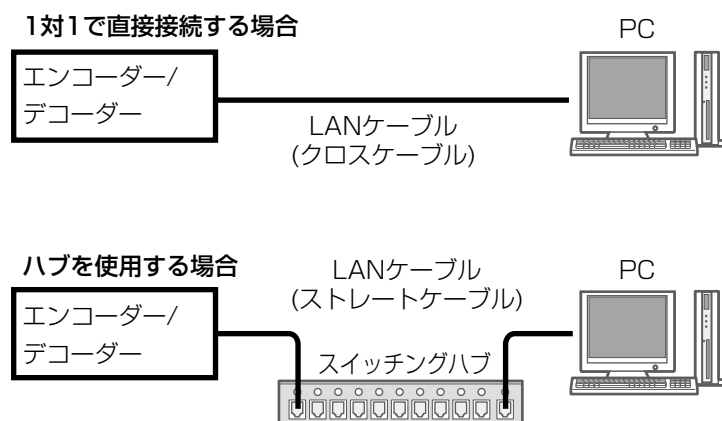
IPSETUPソフトウェアの使いかた、およびエンコーダー/デコーダーの設定方法については付属CD-ROM内の取扱説明書をお読みください。

本書では、エンコーダーまたはデコーダーを設定するためのトップページの表示のしかたについて説明します。

設定を行う前に

ネットワーク設定を始める前に、あらかじめ以下の準備が必要です。

1. エンコーダー/デコーダーとPCを下図のどちらかの方法で接続する。
2. エンコーダー/デコーダーとPCが接続できたら、エンコーダー/デコーダーの電源スイッチをONにする。



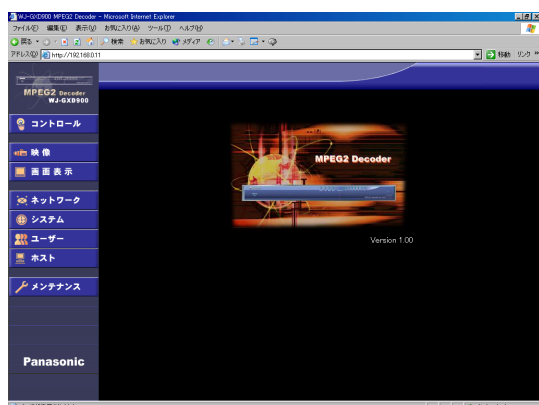
設定画面の表示方法

エンコーダーまたはデコーダーを設定するためのトップページを表示する方法について説明します。IPアドレスなどのネットワークアドレスは、ネットワーク管理者にご確認ください。

1. ブラウザーのURL欄にデコーダーのIPアドレスを入力し、Enterキーを押す。

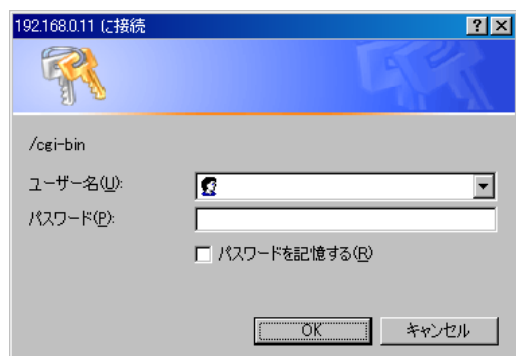
エンコーダーの場合は、工場出荷時の初期値192.168.0.10を「http://192.168.0.10/」と入力してEnterキーを押すと、トップページが表示されます。

デコーダーの場合は、工場出荷時の初期値192.168.0.11を「http://192.168.0.11/」と入力してEnterキーを押すと、トップページが表示されます。



表示例: デコーダーのトップページ

2. トップページ表示後、左にあるボタンをクリックすると、認証画面が表示されます。



アクセスレベル1 (ADMINISTRATOR)のユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。入力したユーザー名とパスワードが登録されていれば設定ページが表示されます。

工場出荷状態では、「ユーザー名: admin」、「パスワード: なし(空欄)」を入力して[OK]ボタンをクリックしてください。なお、ユーザー名とパスワードは、ユーザー設定ページで設定できます。

認証されると、トップページが表示されます。

一度認証されると、次に左のボタンを操作しても、認証画面は表示されず、そのまま設定・確認できます。

仕様

エンコーダーの仕様

・基本仕様

電源	AC100 V 50/60 Hz
消費電力	23 W
使用温度範囲	-10 ℃ ^{*1} ~+50 ℃
使用湿度範囲	90 % 未満
寸法	幅 210 mm×高さ 44 mm×奥行き 300 mm (ゴム足、突起部含まず)
質量	2.9 kg
仕上げ	前面パネル樹脂部: ブルーメタリック塗装 前面パネル金属部: シルバーメタリック塗装 上カバー: シルバーメタリック塗装 後面パネル部: 亜鉛メッキ処理鋼板

・入出力

映像入力	1 V[p-p]/75Ω(制御信号多重)、NTSCコンポジット、BNC、4入力
映像出力	1 V[p-p]/75Ω、NTSCコンポジット、D-Sub9ピンコネクター、4出力
音声入力	-10 dBv 10 kΩ以上、不平衡、D-Sub9ピンコネクター、4入力
画像圧縮方式	MPEG2-TS、SP@ML
音声圧縮方式	Dolby Digital [®]
画素数	最大 720×480ピクセル(有効画素数704×480ピクセル)
フレームレート	30 fps
ビットレート	1.5 Mbps、3.0 Mbps、3.8 Mbps、4.6 Mbps、6.1 Mbps、9.2 Mbps
シリアルポート	RS-485、4線式、RJ-11、終端抵抗ON/OFFスイッチ、4 800 bps、9 600 bps、19 200 bps
アラーム入力	メイク入力、端子台、4入力
トリガ出力	オープンコレクタ出力、端子台、4出力
リセット入力	電流ループまたはメイク入力、端子台、1入力

・ネットワークインターフェース

ネットワーク	100BASE-TX、RJ-45
サポートプロトコル	IP、ICMP、IGMP v2、BOOTP、TCP、UDP、HTTP、RTP、SNMP、NTP、FTP、DHCP
セキュリティ保護	パスワード認証、映像・音声データの暗号化(ハードウェア)

※1 常時通電状態でご使用の場合

デコーダーの仕様

・基本仕様

電源	AC100 V 50/60 Hz
消費電力	45 W
使用温度範囲	-10 ℃*1~+50 ℃
使用湿度範囲	90 % 未満
寸法	幅 420 mm×高さ 44 mm×奥行 350 mm (ゴム足、突起部含まず)
質量	4.8 kg
仕上げ	前面パネル樹脂部: ブルーメタリック塗装 前面パネル金属部: シルバーメタリック塗装 上カバー: シルバーメタリック塗装 後面パネル部: 亜鉛メッキ処理鋼板

・入出力

映像出力	1 V[p-p]/75Ω、NTSCコンポジット、BNC、4出力
4画面分割出力	1 V[p-p]/75Ω、NTSCコンポジット、BNC、1出力
音声出力	-10 dBv 10 kΩ、不平衡、RCAピン、4出力
音声ミキシング出力	-10 dBv 10 kΩ、不平衡、RCAピン、1出力
画像圧縮方式	MPEG2-TS、SP@ML
音声圧縮方式	Dolby Digital®
画素数	最大 720×480ピクセル(有効画素数704×480ピクセル)
フレームレート	30 fps
ビットレート	1.5 Mbps、3.0 Mbps、3.8 Mbps、4.6 Mbps、6.1 Mbps、9.2 Mbps
シリアルポート	RS-232C、D-Sub9ピンコネクタ、サービス用
リセット入力	電流ループまたはメイク入力、端子台、1入力

・ネットワークインターフェース

ネットワーク	100BASE-TX、1000BASE-T、RJ-45
サポートプロトコル	IP、ICMP、IGMP v2、BOOTP、TCP、UDP、HTTP、RTP、SNMP、NTP、FTP、DHCP
セキュリティ保護	パスワード認証、暗号化映像・音声の復号(ハードウェア)

※1 常時通電状態でご使用の場合

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書(別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間
ただし、放熱ファンは消耗品ですので、保証期間内でも「有料」とさせていただきます。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このエンコーダー/デコーダーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

PDFマニュアルの「故障かな!？」に従ってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源スイッチを「切」にしてから、電源プラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

品名	MPEG2エンコーダー/MPEG2デコーダー
品番	WJ-GXE900/WJ-GXD900
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル



0120-878-410

受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社および関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくための、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WJ-GXE900/WJ-GXD900
	販売店名	電話（	）	—		

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号